作楽神社　岡山県神社庁　神社検索システム

由緒

当社は、鎌倉時代に美作の守護職（大名）の館（やかた）のあったところで、境内全体が国指定の史跡となっている（大正１１年指定）。

元弘のむかし、第９６代後醍醐天皇が時の執権北条高時のために隠岐に流される途中、この館にお泊まりになった。時に、備前の人、児島備後三郎高徳は、天皇を賊から奪い勤王の義兵をあげようとして、船坂山や杉坂峠で一行を待ちかまえたが、みな失敗に終り、単身この館に忍びこもうと企てたが、これまた警戒厳重で成功せず、折から館の門の前に春雨にぬれて美しく咲いていた桜の幹を削り、「天莫空勾践時非無范蠡（天勾践を空しうするなかれ、時に范蠡なきにしもあらず）」と１０字の詩を書いて立ち去った。

これは，越王勾践（こうせん）が呉王夫差（ふさ）と戦って敗れ、とらわれの身となっていたのを、忠臣范蠡（はんれい）らの努力によって呉を破ることができた故事によるもので、後醍醐天皇を勾践に、高徳自身を范蠡にたとえて、帝（みかど）をお慰めしたわけである。翌朝、この詩を見つけた警固の賊兵は、その意味がわからず、ひとり天皇のみ解し、ここにも忠義な家来がいたかと、末たのもしく思しめされたということである。

この故事は、「太平記」に記載せられて、長く国民の胸に深い感動を与えてきたのであるが江戸時代になって、津山藩の家老長尾勝明は、荒廃していた館あとに碑を建立して、高徳の誠忠を顕彰した。これは、南朝忠臣のモニュメントとしては全国で２番目に古く、湊川の「嗚呼忠臣楠子之墓」よりも４年はやく建てられたものである。

その後、幕末になって、ここに神社を造立しようという声がおこり、国学者道家大門（どうけ・ひろかど　1831~1890）らの建議により、藩主を経て朝廷の許可を受け、勅号の「作楽神社」という社名が下された。

こうして明治２年に神社創建となったのである。道家大門は、作事奉行として宮の造営にあたり、また初代の祠官として生涯を神明に奉仕した。現在の社殿は大正１５年再建のものであり、社宝には来国行の名刀や児島高徳の木像がある。約１万坪の境内には文学碑なども多く、地方文化の宝庫、民族精神の拠点となっている。

前の写真へ次

基本情報

神社コード	03015
神社名	作楽神社（サクラジンジャ）
通称名	
旧社格	県社
鎮座地	〒708-0015 津山市神戸433
電話番号	0868-28-0719
FAX番号	
駐車場	有　50台
御祭神	後醍醐天皇,児島高徳朝臣

御神徳

主な祭典	４月第２日曜日：例祭 １月１４日：古筆感謝祭 １０月体育の日：旧制高校寮歌振興祈願祭
宮司宅電話	086-728-3262
URL	
e-mail	
特記事項	
氏子地域	

交通アクセス

ＪＲ姫新線院庄駅から西へ徒歩１５分

神事一覧

古筆感謝祭	祭礼日時：1月14日13:00	文化財指定： 無	神事詳細
餅つき	祭礼日時：4月第2日曜9:00	文化財指定： 無	神事詳細

検索画面に戻る

© 2016 Okayamaken Jinjacho